

労働組合の役割と必要性

賃金、労働条件の改善。ダイ改や安全問題等の改善、定年まで安心して働き続けられる職場作り・・・これらを改善要求し、交渉が出来るのは労働組合のみ！

今後の労働組合運動について

①運動の原点は職場にあることに変わりはない ②職場の声を聞き、それを口に出すことの重要性 ③多様化する働き方だからこそ、労働組合の必要性がある！



千葉地区労働講座

講演「今後の労働運動と私たちの課題」

講師：岩元孝信氏（本部書記長）



千葉地本の機関紙活動について、評価していただく言葉があり、嬉しく思いました。

簡単なご紹介

おそらく千葉での行事で、組合内の来賓として平成採用の組合員が招かれたのは初めてではないでしょうか。

岩元さん（現在50歳）は、JR九州の採用で、駅勤務の後、長崎で車掌をしていたとのこと。他労組より国労に加入し、現在は中央本部の書記長で専従という大役を担っています。あいつの冒頭で、千

労働組合の現状

厚生労働省調査で、全体の労働組合組織率は16.3%、993万8千人。千人以上の大企業では39.8%で、交通界での組織率は比較的高いという報告で始まりました。JR内では、東日本以外は労働組合加入率は高水準、東日本は12組合で16%を切る現状。JR総連瓦解後の新入社員については、組合未加入が続いている現状だが、

これを当たり前にしてしまうと、労働組合がなくなってしまう。どこかで歯止めをかけなければならず、労働組合が当たり前になり、離職率が上がっても無理はありません。

労働者の末組織化と孤立状態

組織率低下における変化ということで、社内では隣で何をやってるのか分からない状況で、話しかけづらい、相談出来る相手がいらないこと、どんどん孤立感が増していきような職場風土が作られているよう

運動の原点は職場！

です。原因のひとつとして指摘されたのが、施策の一方的な実施と、タレットによる一斉配信であります。タレットの受信事項が、当たり前事項として（安全面、サーブス面、あるいは自分たちの仕事の進め方等々）を問題視もせず、疑う余地なく受け入れることで、更に追い込まれていくのだと思えました。離職率が上がるのも無理はありません。

加入に向けての課題等

- ① 労働組合の必要性について理解されない
- ② 労働組合への嫌悪感がぬぐい切れない
- ③ 成功経験の乏しさ
- ④ 労働組合が何を

ているのかの情報不足 特に③は、ベア獲得などの経験が少ないことが大きいと思います。これは体験を積み上げていくことが大事なので、他労組の人たちとも話してみたいです。

新たな情報発信共有 TUNAGの導入

情報発信や共有に関する問題点を解消し、発信の強化、役員の負担軽減、未加入者らに組合を知ってもらう、アンケート活動、世話役活動との連動等々の目的で、新アプリ「TUNAG」が開発され、全組合員対象での導入が、本部指示で決まりました。後半は岩元さん直々に会場内でアップデートの仕方が指導されました。国鉄時代のおじさんたちには、考えも及ばない新しい風を感じる事が出来ました。素晴らしい講演でした。

☆ 書ききれない部分もあり、左上別枠も今回の資料からです。岩元さん、ありがとうございました。